鮫中

生徒の言語能力を高め、学びに向かう力を育成する指導の研究
～自分の考えを表現する活動を中心として～

（３年計画の２年次）

校長名　　上野　裕治

１　研究主題について

本校生徒は、「生活をよりよく向上させる意識」、「学ぶ意欲」、「コミュニケーション能力」の低さが課題である。そこで本校では生徒が生活を見直し、学習意欲を高めることができるように、「課題の提出」・「１分前着席」・「授業道具の準備」から成る「学習三原則」を定めており、日頃から教師が声を掛けたり、生徒会や学年プログラム委員会などと連携して達成状況を調べたりしながら、生徒に対し意識づけを図ってきた。また、コミュニケーションの活性化を目指して、各種調査や面談を通じて良好な人間関係づくりに努めるとともに、授業ではグループ活動や対話活動を重点的に取り入れることで、発言しやすい雰囲気づくりを心掛けてきた。特に年間６回の「学級話合い活動」では、自分の意見を表現しようとする生徒が増えてきている。

一方で、特に教科の授業においては自分の考えに自信がもてないことや、考えを伝えるための言語能力が乏しいことから、なかなか意見を表現できない生徒がみられる。さらには基礎・基本の定着が不十分であることから、意見をもつことができない生徒も少なくない。これらの点を改善し、主体的に学ぶ姿勢を育むことが急務である。

そこで、昨年度から３年計画で「自分の考えをもつ」、「自分から表現する」、「互いに深め合う」と段階を設けながら、学びに向かう力を育成する指導の研究を進めることとした。昨年度は授業の導入の工夫や、学び方の指導などの取組を通じて、生徒が授業の中で自分の意見を考え、表現しようとする場面が以前に比べてみられるようになった。

今年度は昨年度までの取組に加え、考えを表現する場面を多く設定することで、生徒全員が考えを「自分から表現する」ことを目指して、実践を行っていきたい。

２　研究のねらい

生徒に基礎・基本を定着させるとともに、言語能力の向上を図り、生徒自身の「学びに向かう力」を育成する指導法の確立を目指す。

３　研究仮説

授業における導入場面や学習形態の工夫、授業と家庭学習との連携を図る取組を通じて、生徒に基礎・基本を定着させることや、授業などで自分の考えを表現する場を取り入れながら、生徒の言語能力の向上を図ることで、生徒が自信をもって発言したり考えを深め合ったりできるようになり、ひいては主体的に学習に臨むようになるのではないか。

４　研究内容

(1) 基礎・基本の定着や考えを表現する場面の設定など、教科の特質に応じた授業改善の推進

(2) 家庭学習の充実につながる「学び方」指導

(3) 特別支援教育の視点や、ＩＣＴの効果的な活用などを土台にした学ぶ環境づくり

(4) 自主的な態度を育てる学級・学年経営の推進

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	内容・講師・概要等
5	16	第１回小・中学校ジョイントスクール推進事業　授業参観研修
6	1	教育指導課・センター訪問
8	19	第５回校内研（自分の考えを表現する活動の工夫について）
9	22	第６回校内研（八戸市中学校教育研究会領域等研究協議会について①）
10	19	第７回校内研（八戸市中学校教育研究会領域等研究協議会について②）
11	2	中学校教育研究会領域等研究協議会
	16	第８回校内研（授業参観月間について①）
	17	授業参観月間（自分の考えを表現する活動、 特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり、 ICTを効果的に活用した授業づくりについて）（～12／23）
	28	第２回小・中学校ジョイントスクール推進事業　授業参観研修
1	18	第９回校内研（授業参観月間について②）

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
4	5	第１回校内研（研究主題の共通理解～昨年度までの取組と今年度の方針）
	20	第２回校内研（指導案、特別支援の視点を取り入れた授業づくりについて①）
5	18	第３回校内研（今年度の研究の進め方について①）
6	24	第４回校内研（今年度の研究の進め方について②）
8	19	第５回校内研（Chromebookの効果的な活用、三八視聴覚ライブラリーについて）
2	15	第10回校内研（年間の反省と次年度の研究方針）

６　研究の成果

(1) 学校生活に関する課題を話し合う「学級話合い活動」が、自分の考えをもち、表現することの基盤となっている。今年度は、生徒総会を通じて全校でも話合いを行うことができ、活発な発言が行われた。授業においても教師の働きかけを工夫することにより、生徒が自分の意見を考え、表現しようとする場面が少しずつ増えてきている。

(2) 八戸市中学校教育研究会領域等研究協議会の授業発表を通じて、生徒が意欲的に課題に向き合い、調べたことやそれに対する自分の意見を発表することができた。

７　研究の課題

(1) 教科の授業においては、自分の考えを表現できる生徒とそうでない生徒の差が大きい。考えをもち、伝えるためには、その基盤となる知識が必要不可欠である。そのため、考えを表現する活動と並行して、基礎的・基本的事項のより一層の定着を図る方策が必要である。

(2) 昨年度に比べ、授業参観月間への取組の差が教師間で大きかった。全員で学ぶ、研修するという意識の醸成を図っていく必要がある。

（記入者　中野　大輔）